

くまもと

'90市勢要覧
KUMAMOTO



日本国国会図書館蔵
昭和三十三年四月一日
入館
昭和三十三年四月一日
入館
昭和三十三年四月一日
入館

●目次

熊本市民愛市憲章……………	1	都市景観の創出……………	46
市木・市花・市鳥……………	2	住宅……………	47
発刊のことば……………	3	上下水道……………	48
新たなる100年へ向かって —ヒューマンシティくもと— ……	4	清掃……………	50
熊本市100年のあゆみ……………	6	公園緑地……………	52
名誉市民……………	13	道路……………	53
地域と気象……………	14	防災……………	54
人口……………	15	消防……………	55
100周年記念行事 「熊本百彩」……………	18～23	都市計画……………	56
(都市の活力) 地域経済の活性化		基幹交通……………	58
産業……………	25	市電・市バス……………	60
商業……………	26	交通安全……………	61
工業……………	27	(都市の未来) 21世紀を支える人材の育成	
雇用福祉……………	28	学校教育……………	63
農林水産業……………	29	学校施設……………	64
観光……………	30	社会教育……………	65
(都市の変革) 変革の時代への対応		地域文化……………	66
国際交流……………	35	健康文化……………	67
女性の地位の向上……………	36	行政……………	68
長寿社会……………	37	熊本市行政機構図……………	69
心身障害者福祉……………	38	市議会……………	70
児童・母子福祉……………	39	財政……………	72
社会保障……………	40	広報・広聴……………	74
(都市の円熟) 魅力ある都市環境の形成		市民のくらし……………	75
緑と水……………	43	熊本市案内図……………	76
公害防止……………	44	資料編……………	77
保健衛生……………	45	市内の主な官公署……………	87
		熊本市歌	

〔題字……熊本市長 田尻靖幹〕

〔写真説明〕

九曜紋牡丹唐草文蒔絵女乗物一部(永青文庫所蔵・天守閣に展覧中)と宇土櫓、大天守、小天守(写真右から)です。
なかでも宇土櫓は天守閣に匹敵するもので、隅櫓としては日本の城の中では代表的なもので、特別な使命を持っています。敵が攻めてくることが予想される西方向を広く見渡すことができるように建っています。
なお、今回の宇土櫓修理工事の結果、いわゆる『移築説』は否定されました。
『女乗物』は、御前様(大大名の夫人の呼び方)もしくは姫様用の乗物(駕籠)です。



熊本市章

ひらがなの「く」の字を
図案化したもので、市民の
調和を基とし、たくましく
発展する熊本市の姿を太い
円で示したものです。

熊本市民
愛市憲章
—— 品位ある市民の誇りのために ——

私たち熊本市民は 清潔で住みよい街をつくりましょう

私たち熊本市民は 郷土の自然や文化財を大切にいたしましょう

私たち熊本市民は 時間を正しく守りましょう

私たち熊本市民は 交通道徳を重んじましょう

私たち熊本市民は 互いにあたたかく交わり旅行者を親切に迎えましょう

昭和35年5月11日制定

市木・市花・市鳥

●市 花 肥後椿(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花卉が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。



●市 木 イチョウ(イチョウ科)

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しきでよく知られている。



●市 鳥 シジウカラ(シジウカラ科)

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し、白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

(写真は東海大学出版会提供フィールド図鑑より)

市木・市花 昭和49年10月9日制定
市 鳥 昭和59年5月22日制定

発刊のことば

平成の新時代を迎えた昨年、熊本市は、折しも市制施行百周年という記念すべき節目の年に当たり、本年は、新たな百年への第一歩を標す年となりました。

先人のたゆまざる努力で守り育てられた緑と水の豊かな自然と素晴らしい伝統と文化は、明治22年の市制施行以来、明治、大正、昭和の三代から平成の時代へと受け継がれ、今や本市は人口57万人を擁す九州中央の雄都として、着実に発展を続けております。

昨年は、市制百周年に当たり、総力を結集して、数々の記念イベント、記念事業を執り行いましたが、市民の皆様のご賛同を得て多くの分野で予想以上の成果を納めることができました。現在、本市は、間近にせまる21世紀に向け、また新たな百年に向け、「活力に満ちた思いやりあふれる新しいふるさとづくり」を市政推進の基本理念として、「魅力ある都市環境の形成」、「思いやりあふれる地域社会の形成」、「21世紀を支える人材の育成と地域文化、健康文化の振興」、「地域経済の活性化」を不可欠の課題と受け止め、新たなまちづくりに邁進しております。

さて、本年は、市制百周年の記念事業として建設しておりました女性交流の拠点、市民文化活動の中核施設である、総合婦人会館・カルチャーセンターが落成の運びとなりました。更に、魅力ある都市環境の形成を目指した環境総合計画の策定に取り組むとともに、西部地区におけるティ・ササービスセンターの建設準備、市制百周年の記念制度として、多くの市民の御厚情で発足した人づくり基金の有効活用、直接的な地域経済浮揚につながる道路、公園、住宅、上下水道等の社会資本整備に重点的な財源配分をするなど、事業の積極的推進を図って行くことにしております。

今後とも市民の皆様と相携え、市民福祉の更なる向上と市勢の一層の進展という自治体本来の使命に思いをいたし、個性ある新熊本市づくりに全力を傾注することにしております。どうか市民の皆様には、より一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

このたび刊行いたします'90市勢要覧は、記念すべき市制百周年を特集するとともに伸びゆく熊本市の姿を収録致したものであり、御高覧のうえ、市政への一層の御理解を深めていただければまことに幸いに存じます。

平成2年3月

熊本市長 田尻靖幹





新たなる100年へ向かってーヒューマンシティくまもと。

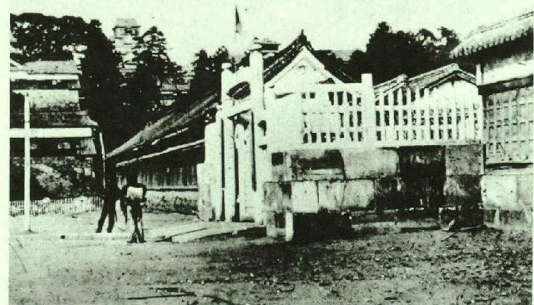
海を越え、空を飛び、人が行きかう。
いま、可能性に満ちた町、くまもとが 未来に

経済が、文化が、確かに大地に実を結ぶ。
向かい、大きく、羽ばたきます。



熊本の あゆみ

THE COURSE
OF
KUMAMOTO



鎮台花畑本営と熊本城、現在の市民会館前から撮影したもので大小天守閣が見える。明治5年頃。

大化	西暦 646	大化2年 砂取付近に肥後の国府および 兵力4軍団が設置される
文明	1469	文明1年 菊池氏の一族、出田秀信 千葉城を築く
明応	1496	明応5年 鹿子木親員、古城に居城を移し、 隈本城と称する
慶長	1601 1607	慶長6~12年 加藤清正、現在地に熊本城を築き、 河川の築堤、井戸の掘削など行う
寛永	1632	寛永9年 細川忠利、肥後藩主となる
宝暦	1754 1756	宝暦4~6年 藩校時習館、医学校再春館、 藩滋園(薬草園)などが創設される

熊本は、昔から「火の国」と呼ばれてきました。大化の改新のあと、奈良時代に入って現出水町に国府がおかれ、ここを中心に聚落が形成されるようになりました。こののち、平安・鎌倉時代を経て室町時代になると、菊池一族である出田秀信が、はじめて熊本に千葉城を築き、数代後の城主鹿子木親員が、新しく茶臼山に城を築いて隈本城と呼びました。

豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇するや小西行長と加藤清正に肥後を分領させたが、徳川の天下になると、加藤清正は肥後54万石の領主となり、慶長6年か

ら茶臼山に築いていた新城を、隈本城から熊本城に改めました。熊本市が町としての体制を整えたのは、このころからです。続いて細川忠利が肥後の領主となり、大政奉還までの二百有余年を細川家が政治を行ってきました。

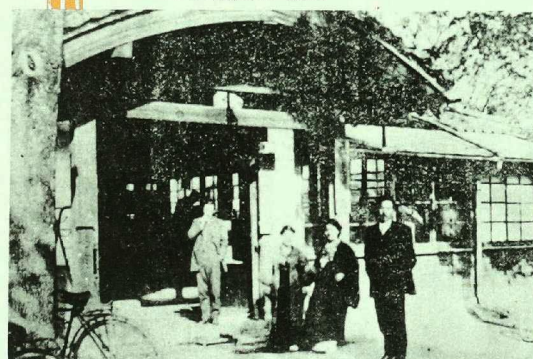
明治10年西南の役で兵火を受け、市街地の大部分を灰燼に帰したが、直ちに復興し、明治22年には熊本市が誕生しました。大正から昭和にかけては隣接町村を合併しつつ熊本市の基礎を固め、九州における政治・経済・教育の中心地として発展を続けました。その後、昭和20年に

明治3年	1870	古城に医学校が創設される
4年	1871	廃藩置県により熊本県が設置される
鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される		
熊本洋学校が創立される		
7年	1874	九州最初の新聞、白川新聞が発行される
10年	1877	西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した
19年	1886	熊本通信管理局(郵務・電務関係)が設置される
20年	1887	第五高等学校(九州に1校)が創立される



明治20年古城に新設された第五高等学校は、同22年立田山麓の黒髪に移転。

22年4月	1889	市町村制が施行され、熊本市が誕生する
市域面積5.55km ² 、人口42,725人、戸数11,797戸、市議会議員数30人、市職員48人であった		
6月		赤十字社熊本支部設立
新南千反畑町、現在の白川公園前に市役所が開庁		



新南千反畑町の旧区役所跡に熊本市役所は開庁した。

7月		第五高等中学が古城から黒髪に移転
23年1月	1890	熊本測候所が設置される
7月		第1回衆議院議員総選挙が行われる

は大空襲で、終戦後の復興期にあった28年には未曾有の大水害によって、市街地は壊滅的な被害を受けました。しかし全市民の不断の努力によって、困難を克服した熊本市は、その後数次にわたる市域の拡大や近代的都市機能の集積により、今や人口57万余人を有する九州中央の雄都として着実な発展を続けています。そして平成元年4月には市制施行100周年を迎えましたが、この記念すべき年を市民と祝賀し、次なる21世紀に向けて「ヒューマンシティくまもと」づくりに邁進しています。

熊本のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO

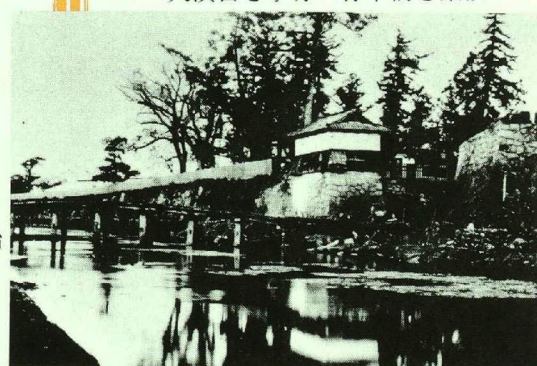
明治23年10月	1890	教育勅語発令(井上毅と元田永孚が成案)
11月		第1回帝国議会が開かれる
24年7月	1891	門司・熊本間の九州鉄道が開通 熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる
11月		ラフカディオ・ヘルン(小泉八雲)五高に着任
25年4月	1892	塘林虎五郎が貧児寮(現大江学園)を設立
27年7月	1894	第6師団に動員令がくだる 孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される
8月		日清戦争がはじまる
28年11月	1895	イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立
29年4月	1896	夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛
9月		私立医学校が設立される
31年1月	1898	熊本専売支局が黒髪町に葉煙草専売所設置
10月		フランス人、ジョン・メリー・コール神父が瀬救済の待労院を設立 この年、市立避病院設立(後の白川病院)
		第23連隊練兵場が山崎町から渡鹿に移る
32年6月	1899	私立医学校が熊本医学専門校となる

32年12月	1899	三角線開通
33年7月	1900	市内に大洪水、白川の橋ほとんど流失し、子飼橋付近溺死者多数
34年1月	1901	熊本郵便局が電話業務を開始



明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白い上衣、紫袴は当時の女性の憧れだった。

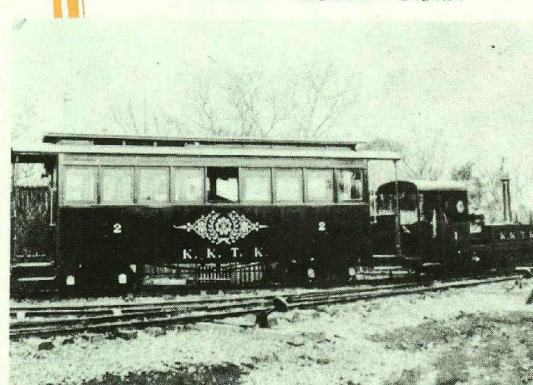
35年11月	1902	明治天皇をお迎えし、陸軍特別大演習を举行 行幸橋を架設
--------	------	-----------------------------



旧熊本城南大手入口の下馬橋。明治35年11月の陸軍大演習の際、行幸坂、行幸橋が造られ姿を消した。

36年3月	1903	市区改正の事業と新市街の事業完成
-------	------	------------------

37年2月	1904	日露戦争はじまり、第6師団出征
39年3月	1906	熊本高等工業学校設立
9月		夏目漱石が「草枕」を発表
40年7月	1907	九州鉄道が国有となる
12月		熊本軽便鉄道株式会社が安巳橋・水前寺間に軽便鉄道を敷設



軽便鉄道。K.K.T.Kは熊本軽便鉄道株式会社の略。

41年2月	1908	人力車争議おこる
42年	1909	鹿児島本線全線開通
43年1月	1910	薬学専門学校発足
4月		女子師範学校発足
6月		熊本ガス株式会社が開業する
44年4月	1911	市立実科高等女学校開校 市立工業徒弟学校開校
10月		菊池軌道株式会社が上熊本・広町間敷設

熊本のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO



大正2年10月3日二階建
八角形の肥後相撲館が落成した。

- 大正
- 1913 大正2年
この年、熊本軌道が田崎・百貫港、
田崎・高麗門に開通
 - 1914 3年7月
第1次世界大戦はじまる
 - 1915 4年11月
御大典記念奉祝共進会を開催
 - 1916 5年6月
県公会堂が市に移管される
 - 1917 6年3月
熊本市工業従弟学校が
熊本商工学校となる
 - 1918 7年7月
このころより全国に米騒動
 - 10月
スペイン風邪が流行し、
全国で死者15万人
 - 1920 9年10月
第1回国勢調査で、
市人口70,388人(市史)
戸数 13,817戸
 - 1921 10年6月
隣接11ヶ町村を合併、
人口133,467人
戸数23,819戸の大熊本市が発足
(黒髪・池田・花園・島崎・横手・
春日・古町・本荘・春竹・大江・
本山)



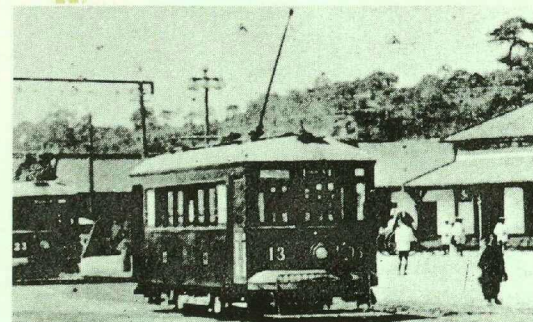
大正10年、隣接11ヶ町村を合併し大熊本市が発足した。記念碑前で合併を祝う人たち。

- 大正
- 1922 11年4月
熊本市立実科高等女学校が
熊本市立高等女学校となる
 - 5月
熊本医学専門学校が医科大学に
 - 1923 12年12月
手取本町に市役所新庁舎完成



大正12年12月、市役所新庁舎完成。

- 大正
- 1924 13年8月
市営電車開通(車輛15台)
開通に伴い鉄筋コンクリート大甲
橋を架設



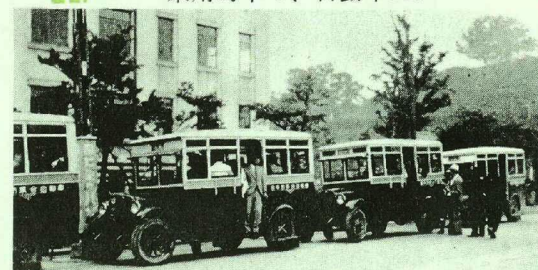
大正13年8月1日市電開通。救助網がついている
開通当時の13型電車。

- 10月
歩兵第23連隊が
渡鹿に移転
- 11月
熊本市上水道完成



大正末の市街地。合併による市域の拡大、
三大事業の完成など、市の中心から周辺へと
都市づくりが進む。

- 大正
- 1925 14年3月
市三大事業(市電、上水道、
23連隊移転)完成記念共進会開催
入場者133万人
 - 4月
出水村を市に合併
 - 1926 15年8月
三大事業完成記念共進会の剰余金
で五高と下河原にプールを造成
 - 1927 昭和2年2月
長六橋を近代式鉄橋に架け替える
 - 7月
市立工業研究所(後の工芸指導所)
が開所
 - 12月
市営バス発足(バス17台)
この年、市及び市付近の人力車812、
乗用馬車4、自動車115

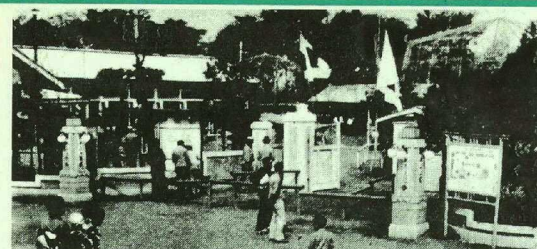


昭和2年12月から17台の市営バスが走り始めた。
(写真は昭和8年6月)

- 昭和
- 1928 3年2月
第16回総選挙、最初の普通選挙
行われる
 - 6月
NHK熊本放送局でラジオ初放送
 - 9月
御大典記念事業として、
陸上競技場・野球場が完成
 - 1929 4年7月
水前寺動物園が開園
 - 1930 5年3月
熊本市歌を制定

熊本のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO



昭和4年7月に
水前寺動物園が開園。

- 昭和
- 1930 5年4月
市営勸業館が新市街に開館
 - 10月
市公会堂新館が開館



昭和5年5月、公会堂の新館が開館。
昭和43年市民会館の出現に伴い取りこわされた。

- 昭和
- 1931 6年6月
白坪村を市に合併
 - 11月
天皇陛下をお迎えし、熊本平野等
で陸軍特別大演習を举行
 - 1932 7年9月
失業救済の土木事業をはじめ
 - 12月
画図村を市に合併
 - 1933 8年3月
花園町に市営墓地を開設
 - 4月
熊本高等小学校が再設開校
熊本駅に観光案内所を設置
 - 1935 10年3月
新興熊本大博覧会を開催



昭和10年3月から5月にかけて開かれた
新興熊本大博覧会。

- 昭和
- 1936 11年11月
健軍村を市に合併
 - 1939 14年4月
清水村を市に合併
 - 1940 15年12月
川尻町、日吉村、力合村を合併
この年、市営バスに木炭車登場
 - 1941 16年4月
小学校が国民学校に改められる
 - 12月
太平洋戦争はじまる
 - 1942 17年4月
九州日日新聞と九州新聞が
統合され、熊本日日新聞が発足
 - 1943 18年
この年、学徒、女子挺身隊の
戦時動員が開始される
健軍に三菱重工業航空機製作所が
完成する
 - 1944 19年3月
市電気局が市交通局と改称
 - 1945 20年6月
市立産院が発足
 - 7月
7月・8月の空襲で市の大半が
焦土と化す
 - 8月
終戦の詔書放送
 - 1946 21年2月
市立市民病院発足
 - 11月
日本国憲法公布(新憲法)
この年、学校給食はじまる
 - 1947 22年4月
市長、県知事が初めて公選で
決まる 国民学校が小学校に
また新制中学が誕生
 - 5月
憲法、地方自治法施行
 - 1948 23年3月
市消防本部設置
市立母子寮を開設

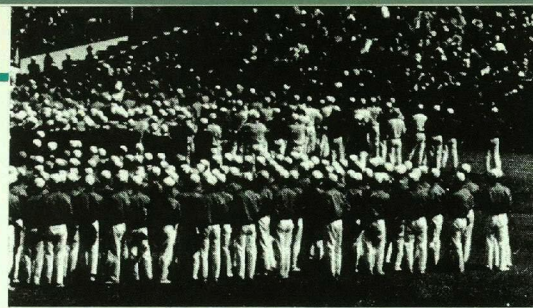


昭和10年頃の新市街記念碑前、
市営バスの発着所。左に専売局と公会堂、
右に勸業館、電話局が見える。

- 昭和
- 1948 23年3月
市自治警察本部設置
(新警察制度発足)
 - 4月
新制高等学校発足する
 - 1949 24年4月
「火の国まつり」はじまる
市立実務員養成所(後の実務商業)
を開設
 - 5月
天皇皇后両陛下ご来熊
この年、国立熊本大学発足
県立熊本女子大学が創設される
 - 1950 25年6月
朝鮮戦争おこる
 - 7月
市競輪事業開設
 - 1951 26年4月
市教育研究所を設置
 - 1952 27年1月
市立博物館開館
 - 7月
住民登録制度を実施
 - 1953 28年4月
田迎村、御幸村を市に合併
 - 6月
豪雨、大水害で市人口の
66%が罹災



「昭和28年6月26日」大水害の惨状。到る所泥の山。
流失した家財などで復旧に多くの人手、資材と時日
を要した。(上通り筋)



昭和35年10月、第15回国民体育大会は、全国から1万3千人が集まり盛大に開催された。

昭

和

昭

和

昭

和

昭

和

昭

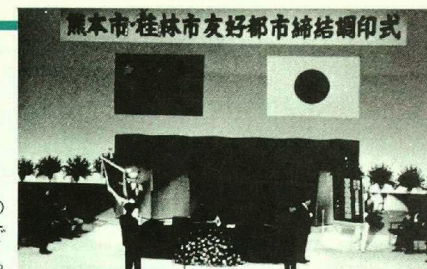
和

熊本のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO



昭和52年9月
東部市民センター開設。



昭和54年10月1日、市制90周年の記念すべき式典の席上で中国桂林市と友好都市締結。

1953 28年7月
池上村、高橋村、城山村を市に合併

10月
市立図書館発足 ラジオ熊本開局

1954 29年6月
市自治警察廃止（警察制度改正）

10月
秋津村を市に合併 市電30年記念「交通観光博覧会」を開催

1955 30年4月
松尾村を市に合併

1956 31年4月
託麻村の一部を市に合併

1957 32年1月
小島町、龍田村を市に合併

7月
大水害で市の33%が浸水し、金峰山周辺の山津波で死者、行方不明多数を出す

1958 33年2月
NHK熊本テレビ開局

4月
中島村を市に合併
昭和天皇皇后両陛下ご巡幸で立田山、水前寺などをご観覧
第30回選抜高校野球大会で済々黌が優勝

9月
熊本市体育館が水前寺公園横に完成

1959 34年4月
国民年金制度発足

7月
国民健康保険制度発足

1960 35年4月
熊本空港開設

5月
愛市憲章を制定

8月
熊本城天守閣再建完成

1960 35年9月
第15回国民体育大会を開催

12月
西保健所を開設

1962 37年3月
天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会」開催

1963 38年4月
北部清掃事業所開所

1964 39年4月
市総合計画策定（マスタープラン）

10月
「まちをキレイにする運動」がはじまる

12月
東部污水处理場完成

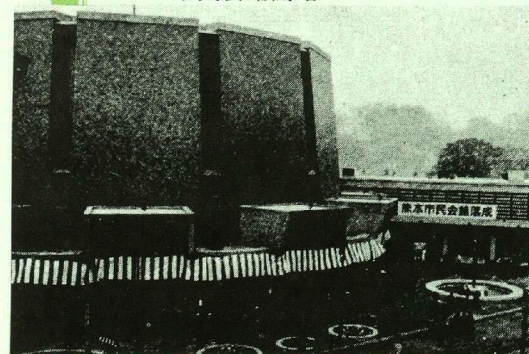
1965 40年4月
市食肉センター開所 この年、市内全小学校にプール完成

1966 41年9月
西部清掃事業所開所
市民相談室を設置

10月
熊本保健所が九品寺1丁目に新装発足

1967 42年3月
出水町に県庁新庁舎が完成

1968 43年1月
市民会館開館



昭和43年1月6日市民会館が完成。1,800人収容の大ホールと各種の会議室を備えた近代建築。

1968 43年4月
市社会教育会館が開館
市育英奨学制度創設

1969 44年4月
熊本（水辺）動物園が完成し、「熊本動物大博覧会」を開催

8月
熊本市章きまる

1970 45年11月
託麻村を市に合併

1971 46年4月
新熊本空港開設

5月
市勤労青少年ホーム開館

6月
九州縦貫自動車道（熊本・植木間）開通



昭和46年6月熊本・植木間の高速自動車道が開通した。

7月
熊本市基本構想きまる

11月
市立ユースホステル開館

1972 47年10月
「森の都」を宣言し、森の都作戦を展開

12月
秋津下水処理場が完成

1973 48年1月
戸島町に市斎場開設

5月
学校給食東共同調理場が完成

1974 49年6月
勤労婦人センターを本山町に開設

10月
西部、南部市民センターが完成
森の都のシンボルとして市の木「イチョウ」、市の花「肥後ツバキ」がきまる

1975 50年5月
身体障害者福祉モデル都市に指定される

9月
南千反畑町に中央老人福祉センターが完成

10月
市立金峰山少年自然の家が開所

976 51年3月
「地下水保全都市」を宣言

977 52年4月
西南の役百周年記念式典を行う

5月
熊本市人口が50万人を突破

9月
錦ヶ丘に東部市民センター完成
地下水保全条例を制定する

978 53年4月
新しい熊本博物館が開館



郷土熊本に根ざした西日本一を誇る熊本博物館が昭和53年4月1日に開館した。

1978 53年8月
市民総参加の「火の国まつり」が誕生



昭和53年8月、熊本の新しい夏まつり、市民総参加の「火の国まつり」が始まる。

1979 54年4月
東部清掃工場完成



昭和54年4月、最新の処理機能を誇る、東部清掃工場完成。

1979 54年4月
新熊本市民病院開設

7月
熊本市保健センター（現東部保健センター）が開所
龍田市民センター完成

10月
「健康都市」を宣言
中国・桂林市と友好都市締結
市制90周年記念式典を行う
養護老人ホーム明生園開園

1980 55年6月
身障者福祉センター希望荘開設

8月
水害で約16,900人の市民の罹災者を出す

12月
熊本市総合計画基本構想きまる

1981 56年1月
熊本市保健衛生研究所開設

2月
熊本城西大手櫓門復元完成

3月
産業文化会館が開館

5月
託麻市民センター完成

7月
熊本市総合計画基本計画きまる

8月
西ドイツ・ハイデルベルク市へ友好訪問団を派遣

10月
熊本市民の翼、友好都市桂林市を訪問

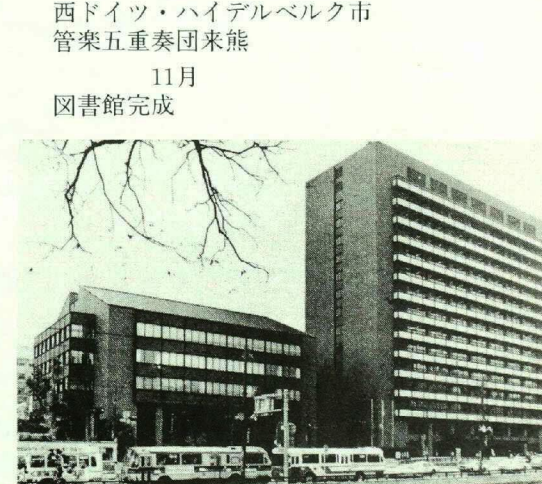
1981 56年11月
新市庁舎建設完成

1982 57年6月
幸田市民センター完成
北部保健センター開所

7月
小楠記念館完成
青少年野外活動センター完成

8月
西ドイツ・ハイデルベルク市管楽五重奏団来熊

11月
図書館完成



昭和35年9月、83年ぶりに熊本城天守閣が再建された。



昭和62年9月、教育センターオープン。

- 1983 58年4月 龍田体育館完成
- 1984 59年5月 市の鳥としてシジュウカラ制定
扇田埋立処分場供用開始
- 7月 清水市民センター完成
- 8月 熊本市の人口が55万人を突破
- 10月 消防新庁舎完成
- 1985 60年6月 母子福祉センター完成
- 8月 秋津市民センター完成
- 1986 61年1月 熊本市自転車駐車場完成
- 3月 電子計算システム始動
- 4月 西部清掃工場完成・東部清掃事業所開所
- 7月 総合体育館・青年会館開館
- 8月 第4回全国都市緑化くまもとフェア開催(8月1日~10月12日)
- 10月 10月1日を「市民健康の日」と制定
- 1987 62年1月 新西保健所開所
- 4月 川尻下水処理場運転開始
- 5月 「ふれあいの森林」内に森林学習館がオープン
- 9月 西消防署が移転新築教育センターオープン

昭

和

熊本のあゆみ

THE COURSE OF KUMAMOTO

昭和62年12月、
米国サンアントニオ市と
姉妹都市締結。



熊本市・サンアントニオ市 姉妹都市締結調印式

- 10月 第1回熊本緑化祭開催
- 12月 米国・サンアントニオ市と姉妹都市締結
- 1988 63年1月 くまもと女性フォーラム'88開催
- 2月 シルバー人材センター発足
- 4月 大阪事務所オープン
女性消防士誕生



- シンボルマーク発表会
長堀通り開通
- 7月 大江市民センター完成
- 8月 江津湖まつり(マイソング発表会)
- 10月 くまもと緑化祭・地場産業振興フェア開催

- 1989 1月 坪井川リバーウォーク構想発表
- 3月 市議会で飽託郡四町からの合併請願採択
- 4月 「熊本百彩」開幕

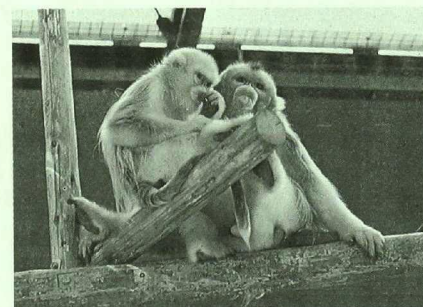


昭和63年4月、長堀通り開通。

- 流通情報会館完成
「水源かん養林記念植樹祭」
- 5月 サンアントニオ市に「熊本園」完成
- 6月 託麻北小学校に屋上プール完成



8月
金絲猴一般公開



- 南部保健センター完成
- 9月 宇土槽・数寄屋丸二階御広間完成
動物資料館完成
熊本城フェスティバル
- 10月 歴史都市サミット開催
- 11月 大阪で「くまもと農産物フェア」開く

熊本市制100周年記念式典

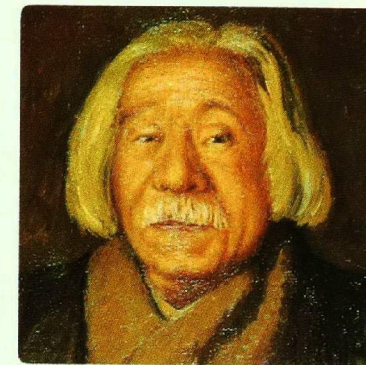


平成元年10月1日
市制100周年記念式典

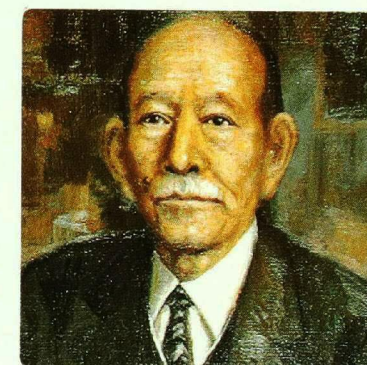
平成元年4月
流通情報会館完成

平成元年8月、
金絲猴一般公開

Human City くまもと 名誉市民



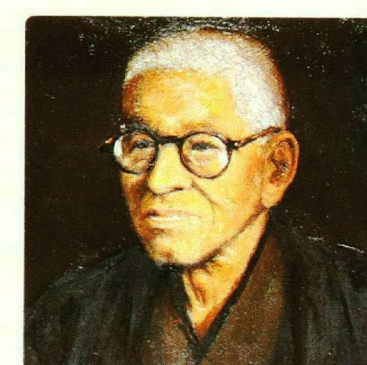
徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏
(昭和30年1月1日表彰)
近世日本の先覚者。また、世界に
稀な優れた思想家であった。
熊本在住中は、白川新聞、熊本新
聞等を発刊。大江義塾の創始者と
して子弟の教育に専念し、その啓
蒙的影響が大であった。
文久3年1月25日生れ、
昭和32年11月2日死去、95歳。



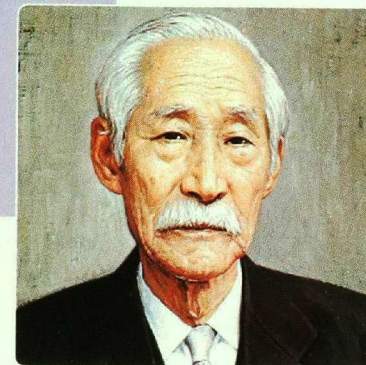
高橋守雄氏
(昭和30年1月1日表彰)
第7代熊本市長として、歩兵23連
隊の移転・市電・上水道の開設の
三事業を完遂、市の近代化、発
展繁栄に尽した。また、教育者と
して熊本商大、短大を長を歴任、
郷土教育の振興育成に努力した。
明治16年1月1日生れ、
昭和32年5月6日死去、73歳。



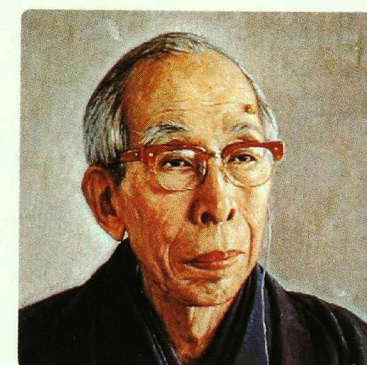
細川護立氏
(昭和35年4月1日表彰)
肥後藩主細川家16代。有斐学舎
舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学
金を出資して本県出身学徒の育成
援護に尽した。国の文化財保護委
員会委員として、本市の重要文化
財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。
明治16年10月21日生れ、
昭和45年11月18日死去、87歳。



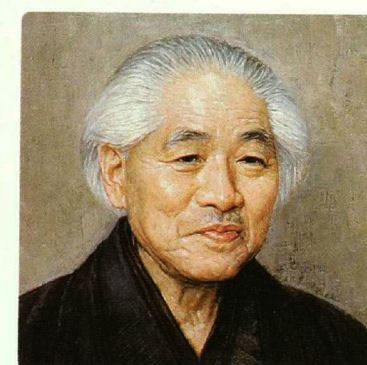
福田令寿氏
(昭和35年4月1日表彰)
医師開業のかたわら、医専五高等
で教鞭をとり子女の教育に専念の
外、社会文化、社会福祉の要職を
歴任、郷土の文化・福祉の向上発
展に尽した。清廉・潔白な人格者
であった。
明治5年12月7日生れ、
昭和48年8月7日死去、100歳。



宇野哲人氏
(昭和44年10月1日表彰)
東京帝国大学での漢学・中国哲学
の教授、東京大学名誉教授、実践
女子大学々長、名誉教授等優れた
業績は、郷土熊本の文運の興隆に、
また、我国の漢学関係の学究者に
多大の影響を与えた。
明治8年12月15日生れ、
昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏
(昭和44年10月1日表彰)
横山大観画伯等に師事し、日本画
に精進。その多くの作品の上に、
肥後の郷土色のにじみ出た芸術の
香りがよく生かされている。日本
画壇の第一人者といわれ、また、
郷土文化の進展に大きく貢献した。
明治20年9月12日生れ、
昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏
(昭和54年10月1日表彰)
元九州日日新聞社主筆。生来の文
人墨客の性格と豊かな文筆で、数
多くの郷土史を編さん監修、先人
についての研究著述があり熊本の
文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、
句誌「かはがらし」(後の東火)を
主宰した。明治19年6月8日生れ、
昭和61年6月4日死去、99歳。



中村汀女(本名・破魔)氏
(昭和54年10月1日表彰)
高浜虚子の門下生で、現代女流俳
句の第一人者。常にふるさとを愛
する心を底流にした「汀女俳句」。
は、氏の人格と句にふれる人々に、
郷土愛を喚起させ、郷土の文化振
興に貢献。「ホトトギス」同人、「風
花」を主宰した。明治33年4月11日
生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。